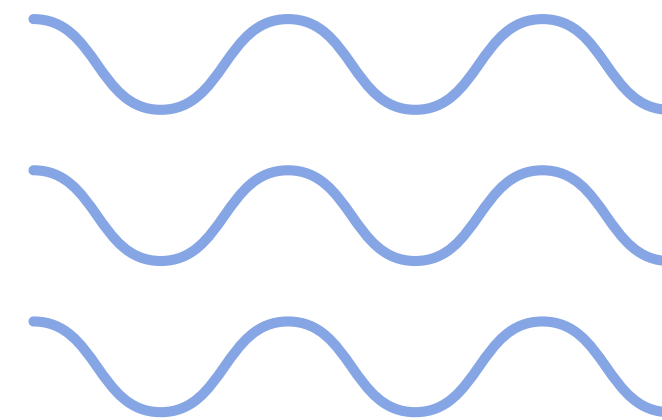


スワール合同会社

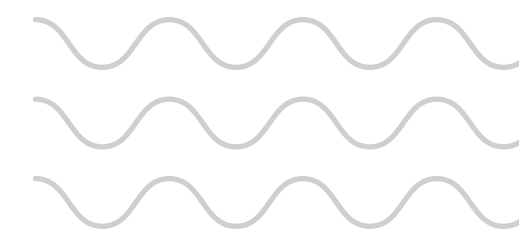
理念研修

～スワール合同会社の想いと未来～

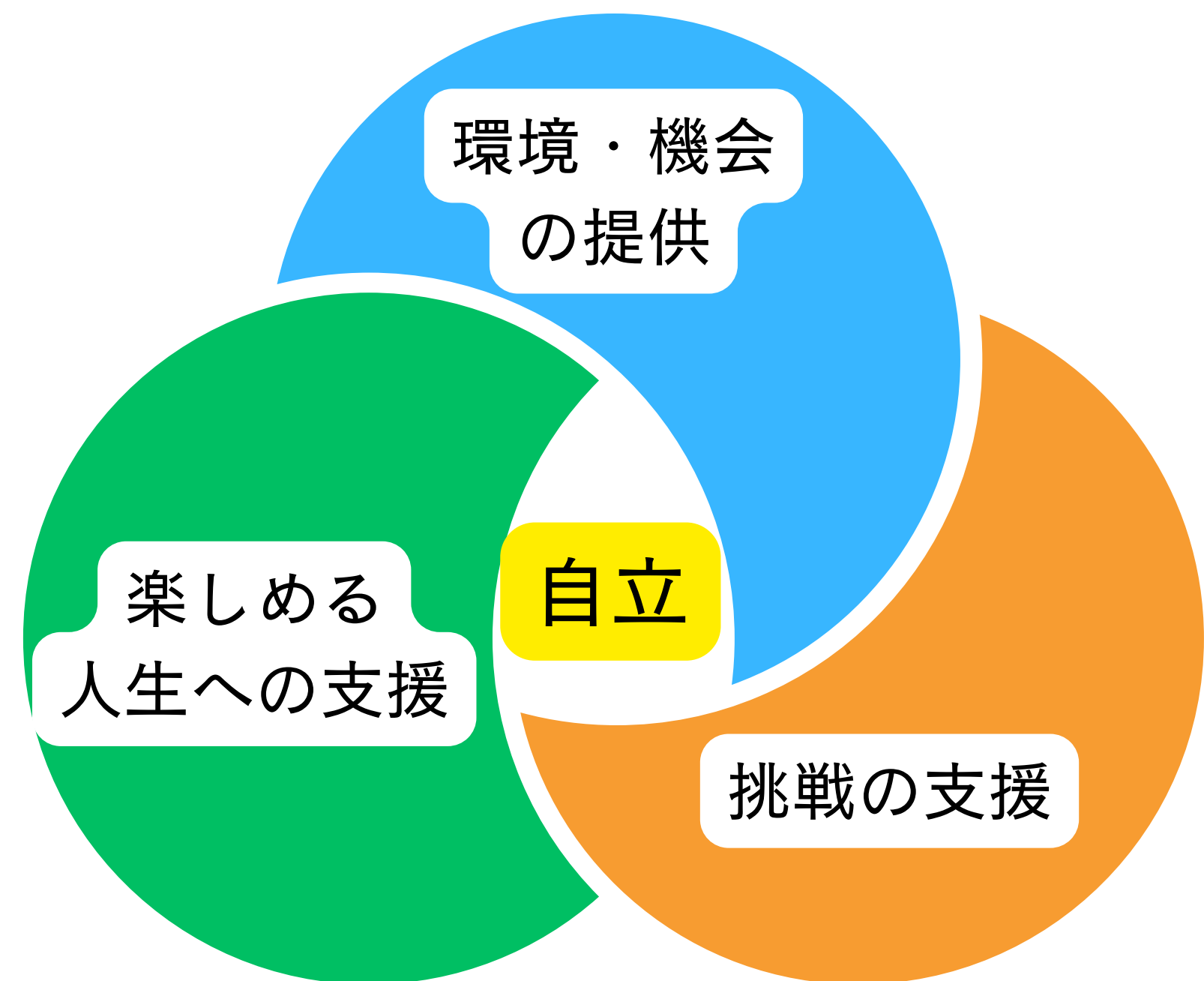
2025年9月



法人理念



子ども達が自立して
生きていく力を育む
機会と環境を提供し、
夢や目標に向かって挑戦し、
人生を楽しむ人になることを
目指します。



スワールキッズが目指す自立とは

「自立」とは何か？

スワールキッズが考える自立とは、
何でも一人でできることではなく、**健全な依存先**（人・物・地域資源）を増やし、上手に**助けられながらも、自分も誰かの力になれる**ことを含めた、相互的な生き方です。

私たちは「子どもが自分らしく楽しく社会の中で生きていくための、心と行動の土台を育てることを支援します。」



なぜ相互的な生き方が大切なのか？

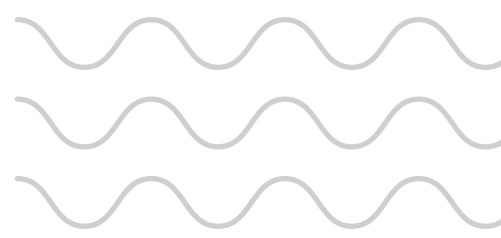
支え合いは「自立」の土台

- 自立とは「一人でなんでもできること」ではありません
- 社会で生きていくには、頼れる力と、頼られる力が必要です
- 「自分はここにいていい」と思える経験が、自己肯定感と成長を支えます

「頼る＝弱さ」ではなく「選択する力」



スワールキッズが育む「ポータブルスキル」 ～どんな環境でも自分らしく生きる力～



ポータブルスキルの定義



「ポータブルスキル」とは、
社会やライフステージが変わっても、
どんな環境でも活かせる“持ち運び可能な力”
子どもたちが未来に向かって「自分らしく前向きに生きる力」です。

スワールキッズが育む「ポータブルスキル」

自立に向けた5つの柱



5つの柱	内容	スワールキッズの支援とのリンク
① 自己理解	自分の気持ちや特性に気づき、「わたしはこう願う」と言葉にできる力	自分の思い希望を言葉にする練習 活動前後に「どうしたい?」「どうだった?」と対話 自分のことを人に伝える「わたしの説明書」(仮題) 自分の願いを可視化する「みらいロードマップ」作成 のマップ面談を定期的実施

スワールキッズが育む「自立」とは一人でもなんでもできる事ではなく、相互的な生き方で、人と繋がりながら自分らしく生きていくことです。

自己理解が他のスキルの基盤とも言えます。

スワールキッズが育む「ポータブルスキル」

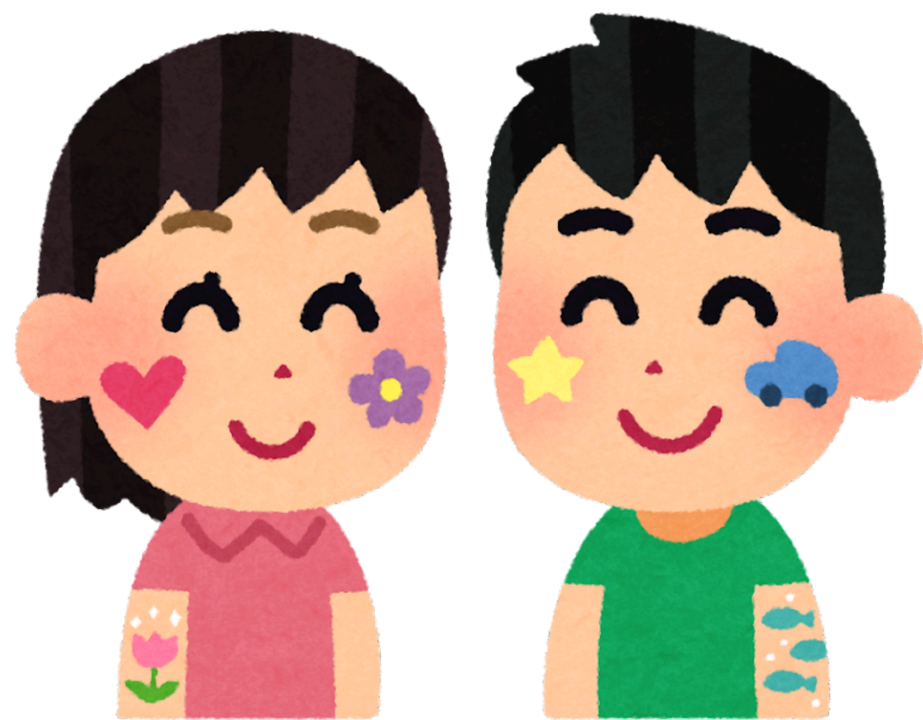
自立に向けた5つの柱



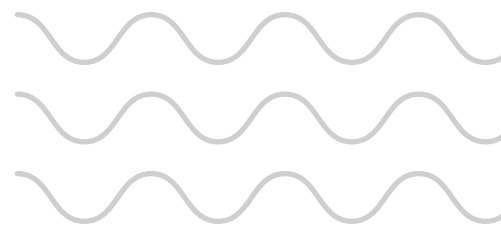
5つの柱	内容	スワールキッズの支援とのリンク
② 感情と行動の調整力	イライラや不安などの感情を理解し、落ち着いた行動に切り替えられる力	クールダウンスペースで安心して落ち着ける環境を用意 SSTで「イライラしたときどうする？」などの自分の気持ちを切り替える方法を知る
③ 生活習慣を整える力	時間・身支度・食事・片付けなど、毎日の生活を自分で見通して行動する力	スケジュールやホワイトボード、手順書を使って流れを視覚化、活動前後に「準備・片付け」のルーティン化、タイマーを使って時間で切替の他、活動の節目や注意を引くもので切替
④ 他者との関わり (社会性)	人と協力し、気持ちを伝え合いながら関係を築く力	ルールのある遊びを通じて、挨拶・順番・共同作業・役割分担、コミュニケーションなどの関わり支援
⑤ 挑戦と失敗から学ぶ力	失敗しても自分を責めず、もう一度やってみる力	小さなチャレンジ機会設定、リトライ支援、「チャレンジする気持ちが大切」の声かけ文化「部分的」「1回だけでも」「見学から」など

スタッフが意識したい 3つの支援視点

1. できることに目を向ける（自己肯定感を育てる）
2. 「正しさ」より「気持ちに寄り添う」
3. 子どもが選べる場面をつくる



子ども「生きる力」とは



知・徳・体のバランスと地域の支え

- 知：論理的に考え、学び続ける力
(学習における力の育成)
- 徳：人との関係性を築き、地域で共に生きる力
(社会性の向上)
- 体：心と身体 of 健康づくり
(生活力の向上)
- 地域と家庭がつながる子育てへ

文部科学省「生きる力」参照

挑戦の場と安心感をつくる

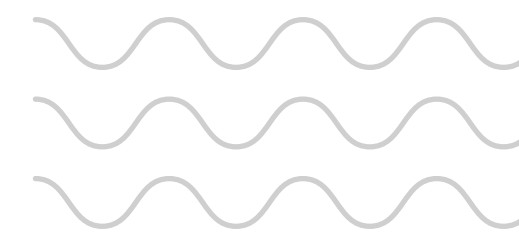
機会と環境を提供

- 成功体験の積み重ねが自己肯定感に
- 支援者が「できる環境」をデザインする存在
- 安心して失敗できる教室が挑戦を後押しする
- 「子どもが安心して参加できる機会」をどう作るかに向き合う



支援者は、リスクを正しく判断しながらも、「できない理由」より「できる方法」を探す人でありたい

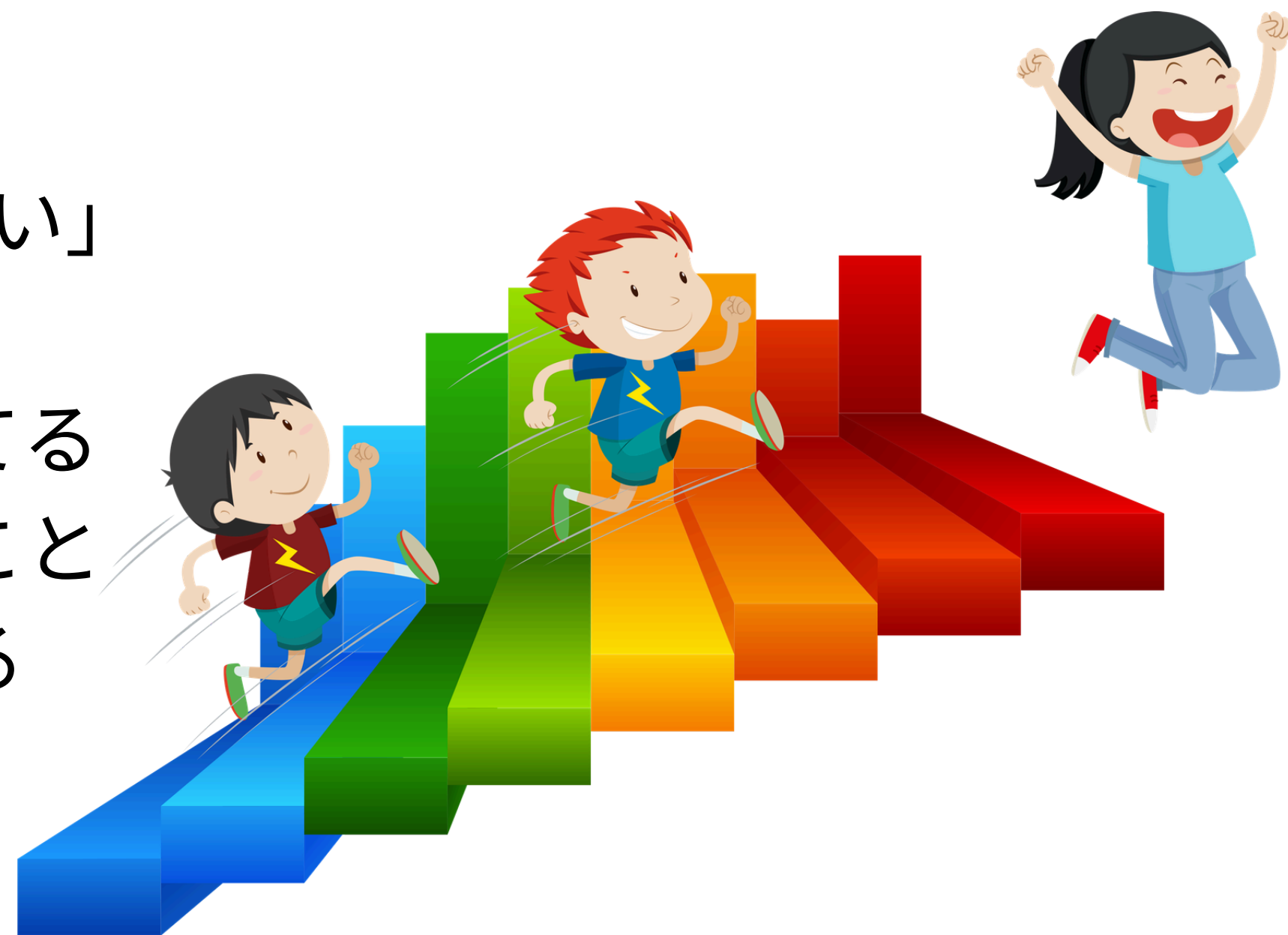
挑戦こそが人を育てる 1



夢や目標に向かって挑戦

夢や目標が子どもに与える力

- 子どもが「なりたい」「やってみたい」と思うことは、主体性の芽
- 夢は、“努力の理由”を内側から育てる
- 小さくても「目指すもの」があることで、挑戦するエネルギーが生まれる



挑戦こそが人を育てる 2



夢や目標に向かって挑戦

夢や目標を育む支援の視点

- 夢の大小ではなく、「語れること」が大切
→ スタッフが「どんなことにワクワクするの？」と問いかける
- 途中で変わってもいい、「今の夢」に向き合う姿勢が育つ
- 大人が“目標をもって生きる姿”を見せることが、子どもの夢の土壌になる

楽しむとは？

「楽しむ」の定義（スワール版）

楽しむとは、夢や目標に向かって挑戦する中で、自分の成長を実感し、人生を前向きに味わうこと。



単に「面白い」「気持ちいい」といった感情的な楽しさだけでなく、

- やってみたいことに挑戦する勇気
- 失敗も含めて経験として受け入れる前向きさ
- 「できた！」という達成感や「成長してるな」という実感

こうした内面的な喜び・手応えを含んだ“深い楽しさ”を指します。

楽しむ力を育てる支援



人生を楽しむ人になることを目指します

- 「これ楽しい！」を自分で選び、感じる体験が、人生を楽しむ力につながる
- 「楽しいね」「嬉しかったね」と共感する関わりが心の安心感を作る
- 気持ちを言葉にする力（感情の言語化）は、感情知能（EQ）を育てる第一歩
- スタッフが人生を楽しむ姿を見せることも、子どもたちへの大切なメッセージ

理念を日々の支援で形にする

- 「自ら育つ力がある」と信じるのが、支援の出発点です。
- 子どもが安心して挑戦できるよう、支援者が環境を整え、見守る
- 小さな成功と一緒に喜び、振り返ることで、
子どもの自己肯定感は育つ
- 私たちが“楽しんで支援する”姿が、子どもに「人生は楽しんでいい」と伝えるメッセージになります

参考資料

スワールキッズが育む「ポータブルスキル」

～主な特徴～

学習支援を通じた「考える力」

読み・書き・計算の基礎力を習得し、自己学習能力を育む
問題解決力、論理的思考を養い、挑戦する心を培う

SSTを通じた「人との関わり力」

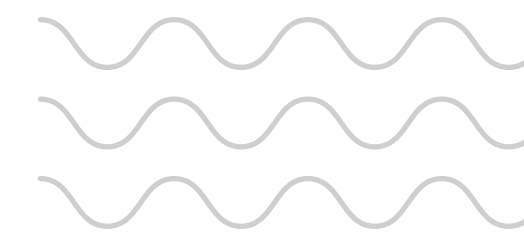
相手の気持ちを理解し、自分の感情を伝える力を育てる
社会性、共感力、協調性を養い、チームで動ける力をつける

生活力向上を通じた「自己管理力」

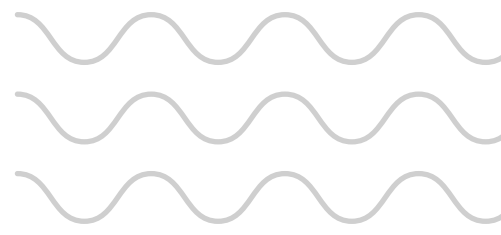
日常の身支度・衛生習慣・計画性を身につける
自己調整力、見通し力、レジリエンス（回復力）を養う

挑戦する力と前向きさ

小さな挑戦から成功体験を積み、自己肯定感を高める
失敗も含めて「やってみよう！」と思える勇気を育む



EQ（心の知能指数）とは



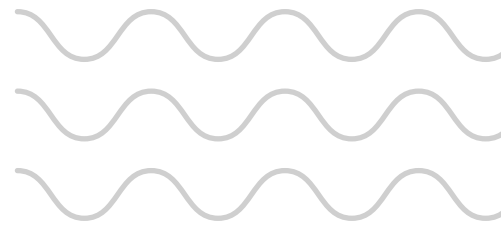
- 自分や他人の感情を理解し、適切にコントロール・活用する力

主に以下の5つの力で構成される：

1. 自己認識力
2. 自己管理能力
3. 動機づけ
4. 共感力
5. 対人関係スキル



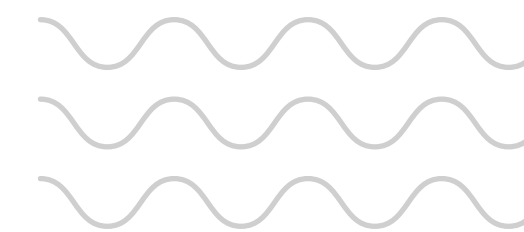
なぜEQが必要なのか？



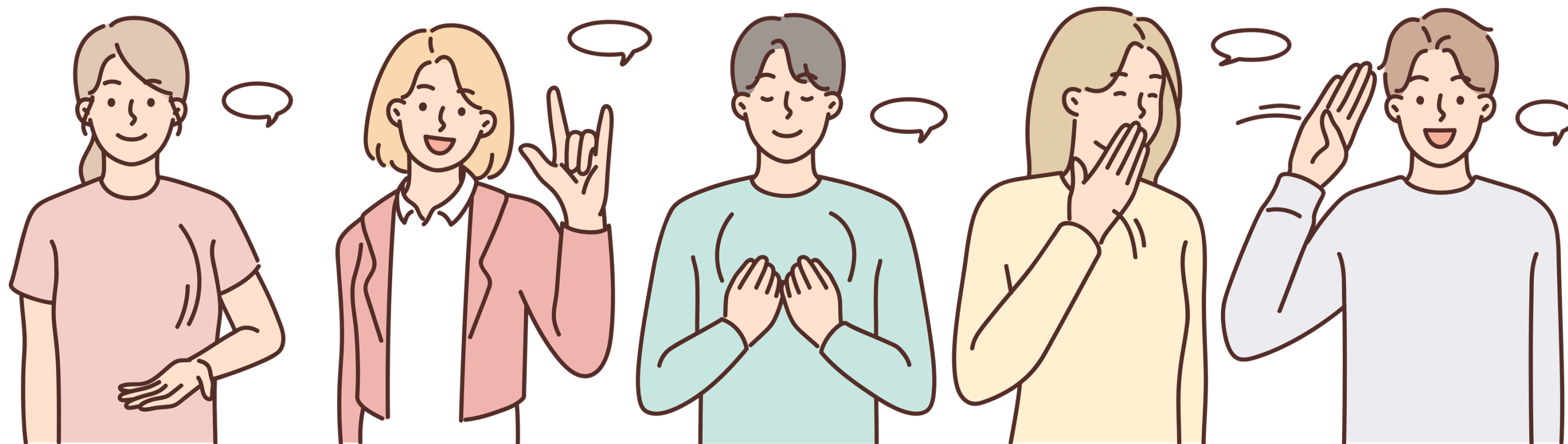
- 感情のコントロールはストレス耐性や人間関係の円滑化に直結
- 多様な人と協働する現代社会では、「共感力」「適応力」が重視される
- 高EQの人は自己肯定感が高く、困難にも前向きに対処しやすい



企業での導入が進む理由



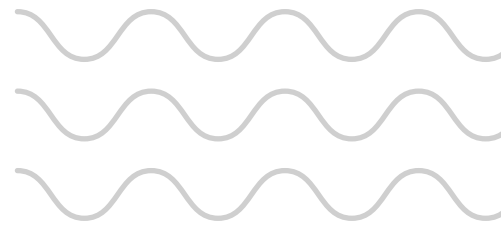
- 単なる知識やスキルだけでなく、職場での人間関係力・レジリエンスが重要視されている
- EQは「チームで成果を出す力」「組織に馴染む力」として注目
- 実際に、多くの企業がEQ検査を入社試験や人材育成に導入



スワールの理念と5領域の対応

法人理念の要素	5領域
自立して生きる力を育む	健康・生活、認知・行動
機会と環境の提供	運動・感覚、言語・コミュニケーション
夢や目標に向かって挑戦する	人間関係・社会性
人生を楽しむ人になる	全領域横断（心の成長）

まとめ



今日の研修を通して、スワール合同会社が大切にしている理念や支援の考え方について、みなさんと共有することができました。

私たちは、単なる“支援者”ではありません。

子どもたちに『自分らしく生きる力』を届ける“伴走者”です。

ぜひ明日から、今日学んだことを支援の中で一つでも意識してみてください。
子どもたちの『できた』と一緒に喜び、挑戦する姿を全力で応援しましょう。

そして、何より——

私たち自身も、人生を楽しむ姿を子どもたちに見せていきましょう。